

第10回「演習課題への取り組み(1)」

レポートを作成する

レポートとは

- 感想文は、自分の経験や自分の気持ち・感情を書き表したもの(主観的な見方)
 - 印象に残った事柄・文章とその理由を述べる
 - 「もし自分なら」「こういう状況なら」など仮定して考えてみる
- レポートは、調査や実験の結果わかった『事実』と、それに基づく自分の『意見』をまとめたもの
 - 事実: 内容が本当かどうか(真か偽か)客観的に確かめられる
 - 意見: 書き手の考え(判断、推測)をあらわしている(客観的な事実に基づく)

レポート作成の手順(タイトルの決定から資料の収集へ)

1. 背景の把握

- 大まかなテーマに関する基本的な情報を集める(新聞、インターネット、事典など)
- テーマとなっている問題や課題について、全体像や大まかな内容を理解する

2. 問題提起

- (与えられた)大きなテーマから、具体的なテーマに絞り込む
- 社会的な問題点や疑問点、興味・関心のある具体的な事柄、また明らかにしたいと思う事柄を明確にする

3. 仮説の提示・主張

- それらの事柄への対応策・解決策に関する自分なりの考えを仮説として述べる
- また、調査や研究の必要性やその方針を検討する

4. 主題(表題)の決定

- 問題提起や自分の仮説(主張)をもとに、その主張や内容が伝わる、具体的なタイトルを考える

5. 資料の収集・整理

- 問題とした事柄や自分の仮説(主張)を裏付けるような、資料を収集する
- 専門図書や雑誌・論文など、具体的なテーマに関する文献(先行研究、参考文献)を集めて、整理する

6. レポートの構成の検討、テーマの再検討

- 集めた資料をもとに、レポート全体の構成(アウトライン)を検討する
- 集めた資料から、テーマをさらに絞り込んだり、考えなおしたり、再検討する

テーマを決める方策

1. 「よくわからない」ような言葉が、テーマの有力候補

- 「興味があるだけ」ネタでは、思い込みがあったり、つまらないテーマになりがち

2. 「問い」をたてる

- テーマの中でできるだけ焦点を絞り込み、表題だけで主張や内容が伝わる、具体的な言葉を考える
- 「～について」は駄目(「自分の主張＝テーマへの問い」になっていない)
- 扱う問いは適切に(壮大すぎる問題、二者択一的な問題、専門的すぎる問題は避ける)

3. テーマは絞り込んでいく

- 基本的情報(背景、キーワード) → <社会的な問題、自分の興味・関心> → 明らかにしたい課題(具体的テーマ)

アイデアをひき出す・整理する

アイデア（発想）をひき出したり整理する方法として、以前紹介した[マインドマップ](#)のほかに、次の方法があります。

皆でアイデアをひき出す（ブレインストーミング：ブレスト）

1. 与えられたテーマについて思いついたことを、カードや大型のポストイットに、1枚につき1件書く
 - 「最低一人〇件以上」という条件をつけるとうい
2. 全員のカードやポストイットを、壁や模造紙などに張って、簡単に説明する
3. 説明に対してはポジティブに反応し、反対意見がある場合は新しいアイデアとして提案する
4. 他のひとの意見やアイデアを参考にして、新しいアイデアを出してもよい

自分でアイデアを整理する（KJ法、親和法）

1. ブレストをして出てきたアイデア全部を一覧できるようにする
2. アイデアの意味や特徴を確認しながら、似ているものを集める
3. 集められたカードやポストイットのグループに、名前を付ける
4. グループに分けたアイデアを参考に、グループごとや全体について、最初からの作業を何回か繰り返す

参考文献

- 森時彦, ファシリテーターの道具研究会「ファシリテーターの道具箱」, ダイアモンド社 (2008.03).
- 石井力重「アイデア・スイッチ」, 日本実業出版社 (2009.07).
- 南田勝也・矢田部圭介・山下玲子「ゼミで学ぶスタディスキル」, 北樹出版 (2011.04)
- 学習技術研究会編著「知へのステップ 第3版」, くろしお出版 (2011.03)
- 中澤務・森貴史・本村康哲編「知のナビゲーター」, くろしお出版 (2007.04)